

「みんなのトイレ」

～安全、安心で快適なトイレって？～

道徳 社会 総合(キャリア・国際理解・環境)

講師 特定非営利活動法人 ウォーターエイドジャパン

- ① 導入…ウォーターエイドの紹介、講師自己紹介
- ② 活動-1…〇〇駅にトイレを作ろう
 - ・アイテムカードを使って、限られた予算内で駅の公衆トイレに必要なアイテムを選ぶ。
 - ・使用者カードを読みながら、多様な使用者が完成したトイレを本当に快適に使うことができるか考える。
- ③ 活動-2…トイレ改善委員会の活動
 - ・多様な使用者が快適に使うことができるトイレにするために、どのアイテムを追加したらよいか話し合い、そのアイテムの金額を計算する。
- ④ 問いかけ・まとめ



【生徒の感想文から】

- ・発展途上国について知ることができた。世界にはトイレがあるのが当たり前でない国がいくつもあった。私たちはとても恵まれた環境で暮らしているのだなああと心から感じる事ができた。これからはもっと積極的に募金活動を行ってきたい。
- ・今回の講演を聞いて、とても心が動かされた。私たちはこうして当たり前のようにご飯を食べていたり、水洗トイレを使ったりしているが、貧困が激しいアフリカの地域に衝撃を受けた。これからは全ての食や物に感謝したいと思う。
- ・世界には安全なトイレを使えない人が3人に1人で、こんなにも多いことに驚いた。日本がどれだけ平和で安全かということが分かった。もっと世界の事を知りたい。私が悩んでいることや気にしていることはとてもちっぽけなことだと思った。
- ・自分たちが公衆トイレを作るという勉強は思った以上に難しかった。たくさんの人の要望があり、トイレを作るのは難しいと感じた。
- ・私の中で印象に残ったのは、アフリカの貧困層の人々についてである。具体的な数字を聞いて現状がより想像しやすくなった。彼らにとってそれがどんなにつらいか、心が痛んだ。今後募金等で援助できる機会があれば参加して行きたい。
- ・ウォーターエイドの方たちが貧しい国へ行って、設備をつくるだけでなく、その国の人々が使えるように教えることまでしてすごいと思った。また、もしもその施設が壊れたしまった時などのために、現地の人が直せるようにまでして、よく考えられているなと思った。

【先生の感想から】

- ・オリンピック・パラリンピック教育の一つとして、発展途上国のインフラ整備について学ばせたくお願いすることを決めた。日常生活のありがたさを感じてもらうために、とてもよい機会だった。具体的な内容で、パワーポイントやワークシートも中学生に適したものだった。講師の先生の体験談を聞くこともできよかった。